第3号
現地支援委員会ニュースレター

青森・岩手チーム

○青森教会 ○カルバリー教会 ○小松ヶ丘伝道所
○三沢教会 ○八戸教会 ○鮫教会 ○盛岡教会 ○秋田教会

クリスマス物資支援感謝！

全国の諸教会の方々のお祈りとご支援を心から感謝申し上げます。昨年は、たくさんのご支援をありがとうございました。盛岡バプテスト教会では、支援物資をいただいた場合には、仮設住宅でのカフェ・ボランティアで活用したり、特別なプレゼントとして活用してきております。そして、プレゼントの場合には、「みなさんのことを覚えております」という思いを込めて、出来る範囲内で公平に行き渡るように努めております。特にクリスマスには、さまざまな物資をいただいたので、注意を払って準備しました。安渡小学校仮設住宅でカフェを行うと、必ず周辺の仮設住宅の方々も来られるので、プレゼントを贈る場合には、安渡地域すべての仮設住宅の方々のために準備します。さらに、今回は大量の靴下をいただきました。一世帯に住まわれる構成メンバーはさまざまなので、すべての世帯の構成メンバーを調査し、それに見合ったものを世帯ごとにまとめて袋詰めしました。お渡しする際にも、事前にそれぞれの世帯ごとに「クリスマスの招待状」と「引き換え券」（世帯番号入り）を配布し、諸教会の方々の思いが安渡地域すべての世帯の方々へ確実に届けられるように努めました。また、盛岡バプテスト教会では、震災当初から陸前高田市の高田高校への物資支援を行っており、こちらにもノートやお菓子や靴下を一人ずつサンタブーツに詰め、生徒と教職員の方々580 名分贈らせていただきました。今回のクリスマスプレゼントはたいへん喜ばれ、大きな励ましになったようです。現在は、2 月に向けてバレンタイン企画を考え、「あいあいプロジェクト」の方々に物資支援を要請しております。ご協力くださっている方々に感謝申し上げます。私たちに出来る事はわずかですが、多くの方々のお祈りとお支えをもって、主の御名が讃えられるよう祈りつつ取り組んでおります。今年もどうぞよろしくお願い致します。　（盛岡教会：大須賀真人）

クリスマスプログラムのご報告

2011 年のクリスマス、私達の教会ではクリスマスプログラムの準備の真っ最中でした。その時 20 箱近い段ボールが次々に届きました。この段ボールは太平洋をまたいだアメリカから来たもので、その中には沢山の靴下が入っていました。この靴下は、アメリカにいる兄弟姉妹が「日本の沿岸地域の方々に靴下を届けよう」という事から、アメリカの各銀行に靴下募金箱のような箱置き、その箱に集まったものでした。一人ひとりが思いを込めて、なにより祈りを込めて届けてくださったものです。そんな、一人ひとりの思いが詰まった靴下がクリスマスに届いたのです。まさに、チョットあわてん坊なサンタさんがクリスマス前に靴下をアメリカから届けてくれた、そんな感じがしました。

またその頃、私達の教会では 12 月 28 日に、ある大学のジャズを中心として活動している同好会の方々の力を借りて、大槌町の安渡小学校の体育館でジャズコンサートが企画されていました。安渡の地域は港町であるためか、ジャズには親しみのある方々がたくさんいるため、このコンサートは大槌町の安渡ではピッタリの企画です。どれだけの方が聞きに来て下さるのか、そしてどれだけの方が満足していかれるのか、私達の教会もサークルの方々も緊張していました。この段ボールが届いたのはそんなときでもありました。「クリスマスプレゼントを沿岸地域のみんなに届ける」。アメリカからのその思いを伝える為に、12 月 28 日はコンサートの後に靴下のプレゼントを届ける事になりました。コンサートは大成功。同好会の皆さんは演奏後に安渡の地域の方々と良い交わりを持っていました。プレゼントの靴下も、皆さん本当に喜んで持って行かれました。このプレゼントとコンサートが、安渡の地域の方々が震災前の生活に少しでも戻るお手伝いになったものと私は思います。私はこれからも祈りつつ沿岸地域の方々が元の生活に戻るお手伝いをしていきたいと思っています。そして今までの活動が主において守られてきた事に感謝します。
（盛岡教会：福田一央）

遠野ボランティアセンター活動報告

いつも遠野ボランティアセンターを中心とした活動のためにお祈りいただき、また、全国からたくさんの奉仕者を送っていただき、こころより感謝申し上げます。ここに今まで訪問して下さった全ての方のお名前や活動をお載せすることはできませんが、多くの方がボランティアや視察、励ましのために訪れて下さっていることへの感謝の気持ちをお伝えするとともに、引き続き、遠野での活動が守られますよう、お祈りに覚えて頂ければ幸いです。以下に 12 月の様子の一部をお届けします。

●12 月 9 日(金)
横浜 JOY チャペルチーム、ハンガリーチームと一緒に第 4 仮設訪問。エールホーム（グループホーム）を借りて、手もみや傾聴などのボランティア。第 4 仮設の方々からの昼食の振る舞いをうける。大槌の周辺で食べられているという甘い赤飯とお漬け物。エールホーム入居の方々とクリスマスリース作りも行った。エールホーム他に計 3 個のクリスマスリースを贈呈した。

●12 月 10 日(土)
日本バプテスト宣教団の陸前高田市気仙町上長部地区仮設集会所開所式ボランティアに同行（宣教団 15 名、JOY チャペルチーム 4 名、佐藤夫妻計 21 名）。
この催事は宣教団が遠野まごころネットを通して現地に集会所を寄贈した開所式を兼ねたお祭り。様々なボランティアが食べ物やおもちゃ、クリスマスブーツなどをふるまう。350 人ほどの被災者が集まった。土曜日でもあり、おもちゃも配られたので子どもたちがたくさん集まり、大盛況。子どもたちは早速お菓子を食べたり、凧揚げをしたりして遊んでいた。このような催事を、いくつかのボランティア団体との共催で行っていく可能性も含め今後の検討課題としたい。

●12 月 21 日(水)
大槌町小槌第 4 仮設訪問・クリスマス会（澁谷主事、金子(千)師、佐藤夫妻計 4 名）。集会所にて美味しい昼食をごちそうになり、その後クリスマス会を行った。宣教団からいただいたクリスマスブーツとクラムチャウダーをお届けした他、手もみと傾聴を中心とした交わりのひとときとなった。この日、参加者の方数名から「クリスマスのお話が聴きたい」との嬉しいご希望をいただき、金子千嘉世牧師が、ヨハネによる福音書のみことばを通して温かいクリスマスメッセージをお話してくださった。皆さん静かに耳を傾けてくださり、思いがけず、イエス様の希望の福音を仮設住宅の皆さんと分かち合う機会をいただけたことに心から感謝。（遠野ボランティアセンター：佐藤浩）

祈りの課題

◆沿岸地域にイエス・キリストの御からだなる教会が与えられますように。
◆遠野ボランティアセンター専任スタッフの働きと家族との生活が守られますように。
◆北海道連合との良い協働によって、支援活動が守られますように。

野田村仮設住宅支援プロジェクト

12 月 8 日(木)、野田村仮設住宅訪問が行われました。この活動も 5 回目となり、本格的に青森・岩手チームと北海道連合との協働の活動になってきました。今回は鮫教会 7 名、八戸教会 4 名、カルバリー教会 5 名、旭川東光教会 1 名、札幌教会 2 名、函館美原教会 1 名、八戸聖書教会(ルーテル同胞)1 名の 21 名で、野田村の仮設住宅 3 ヶ所を訪問して来ました。
午前中に、「泉沢地区農村公園」にある仮設住宅（約 30 世帯）の集会所で、午後は、「野田中学校」にある仮設住宅（約 115 世帯）の集会所で、それぞれお茶会をしました。ベルの演奏やクリスマスキャロルの独唱もあって、ミニクリスマス会のようなお茶会になりました。仮設住宅におられる方々は、普段、なかなか歌を歌う機会が少ないようで、自ずと合唱となり、ひとときですが楽しんでいただけたと思います。また、宣教団から寄贈された手作りのサンタブーツにお菓子などを詰めて、野田中、泉沢、門前にある 3 か所の仮設住宅の全世帯にお届けしました。これから月 1 回の訪問を予定しています。今年は例年に増して寒さが厳しいです。仮設住宅での生活が守られますよう、お年寄りや子どもたちのためにお祈りください。　（鮫教会：林健一）

◆今号に掲載していない被災県内の教会・伝道所の様子も、次号以降、順次お知らせしていきます。

『現地支援委員会ニュースレター』第 3 号　2012 年 1 月発行　◆編集：日本バプテスト連盟災害対策本部現地支援委員会　◆発行人：加藤　誠